

今から8年位前、病身だった亡き妻を乗せて、夕暮れの街を車でよく散歩？いたしました。北は市原八幡宿辺りから姉崎、長浦、金田、高柳、木更津は北片町、寺町、新田、清見台、請西、伊豆島、そして久留里、清和、鴨川か三芳村、白浜へよって富崎を廻り、金谷、上総湊を経て富津海岸とその日毎にコースを変え、行く先には必ず親しい友人達がおり、なじみの店がありました。海辺も金田海岸から鴨川海岸、まで十数か所の砂浜、磯浦はすべて歩きました。

房総の海岸はそれぞれの特徴を持っており、すばらしい景観でありました。

春から夏へ、秋から冬へと季節毎に太陽の沈む位置が大きく移って行きますので、海に沈む直前の夕日に映える山々、岬、湾は光と影に彩りを変えて、海行く人達を驚かせ、歓声を上げさせてくれます。

「ひとすじの けむりかなしや 日が沈む」私の好きな山頭火の句です。

妻を失くして7年経ちました。

今でも夕暮れのドライブは続けています。毎日移り変わり行く時代を見ておきたいからであります。時々、誰もいないはずの隣の席へと話しかけながら…。年をとりすぎた老人の悪い癖のようであります。最近この夕暮れのドライブで気がついた事は、団地へと登る坂道、村々へと通じる街外れの道を、白いビニール袋を両手いっぱいぶら下げて、歩いて行く人々の群れが多くなっている事でありました。

それからまもなくNHK特集「買物難民」を見るに及んで、この豊かで便利な房総の地にその前兆がすでに始まっていた事を知りました。なぜ、物が有り余る時代に買物難民が生まれたのか？かつて極めて好景気の日本はグローバル化という新しい経済社会を迎えて、必要以上の規制緩和をすすめ貿易産業等国際競争力を持つ大企業、大型量販店はすばらしい成長を続けて参りました。新しい経済社会に伴う道德観、価値観のルールが出来ていなかったために、デリバティブを生み、世界経済をめちゃくちゃに崩壊させてしまいました。

地方経済、中小企業に対しても当然あるべきハンデキャップを無視して、税収ばかりを考えた政治行政の大型店誘致は、地方経済の希望、活力、働く場所まで奪って地方商店界を荒廃させ、買物難民が生まれたのであります。このままですと更に急速に増大すると思われます。

手をこまぬいておれば、今の商店界はあと10年で消失するとまで言われております。政治や行政に関わる方達には、人口増大、車社会の絵図を一刻も早く、少子高齢コンパクト化社会への絵図に切り替えていただきたいと思ひます。

コンパクト社会とはこの地に根付いて住み、働き生きる人達が豊かでうるおいのある街であり、弱肉強食の大型販売店の植民地としない郷土愛規制を持って頂きたいものです。

竜馬が私達に訴えている事は、「学び、努力し、志を失わず高く持てば田舎の下級武士、町人でも新しい国は作れるぜよ！！」であります。